



TITLE:

會告・通信

AUTHOR(S):

CITATION:

會告・通信. 天界 1935, 15(170): 320-320

ISSUE DATE:

1935-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167025>

RIGHT:

本會の地方に於ける發展大に進む!!

○過般、本會の承認せる大阪市岡中學支部は来る六月一日同校に於いて創立發會式あり、本部より柴田、高城兩氏臨席し、講演並に實地指導をなす筈。

○又今般、京都京星會が京都支部として連携するべく協定なり、目下、準備中。(精細は次號)

通 信

千九百廿五年三月六日

山 本 先 生 机 下

拜啓 陳者御送附の天界二月號一部正に受取りました。(中略)該雜誌の始より終迄甚だ興味を以つて目を通しました、記事中我國に於て益々同好者の數を加へつゝあるのを概知しまして欣喜にたえません。當地などは布哇八島を通して吾同胞十萬を越えますが天文學に志し居る者は私一人であります、曉天の星と云ふ事がありますが他分日中の星かも知れません。(中略)原田助 博士御在布中、氏より度々貴下の事を承り居りました。又先年来國東部に勉學致して居りました節、御拜眉を得度と存じまして、1926年六月初旬シカゴ市へ急いで参りましたが、其時は既に貴下には加州ウキルソン天文臺に御出發の後にて遂に御拜眉の榮を得ず、誠に残念至極に存じて居ります。私も其後健康を甚だ害しまして目今ではブラブラと自適に日を暮して居ります。早く以前の如く回復して何等かの御報告でも送る事が出来る様になりたいと願つて居ります。早々

在 布哇ホノル、 熊 田 儀 助

(前略) クラス内の同志を集め十三名で私等の同好會をつくりました。それより皆心を合はせ蓄資相つとめまして、この三月、粗末ながら15センチ反射經緯機を求める事が出来ました。それよりは専ら使用になれるといふことを目的としまして、種々の二重星、月及び木星等を眺めてゐましたが、大分なれて來ましたので、ぼつぼつ練習的に繼續觀測を初めてみたいと思ひまして、十三人を三つの部門(即ち 1. 恒星 2. 遊星及び流星 3. 太陽)に分ちまして觀測を初める事に致しました。それで私は都合により太陽の觀測をする事になりました。觀測につきましては發表なんて事は考へてゐません。太陽觀測は殊の外毎日の觀測が必要ですのに、山陰地方は一年の三分の二位も觀測出來ない日があるものですから、うんざりしてしまひます。たとへ發表するとしましてももう少し經驗をつんでからにしたいと思ひます。(後略)

四月三十日

島根縣師範學校

飛 田 敏 郎

編輯だより

☆「時」に關して特輯してみたのが本號、生憎「時計」に就いては適當な原稿資料を得なかつたが、然し凡そ「時」に關する重みのある種々の記事を得た事には悦んで戴きたい。先づ山本先生の「滿洲國の標準時を改正すべし」てふ檄に御注意ありたい。次に天文學の有用性を述べられてゐる。之は畢竟、誰人も「天文」を口にする者の全てが、社會奉仕への常識として知りおくべき必修目である。六月十日「時の記念日」を迎へるに當り、我々はこの日こそ天文術への認識を普及したいものである。水野副會長が「標準時」に就いて精細に解説されたのも悦ばしい。七月號からは日食に關する記事等が満載されます御期待下さい!! (T. T. 生)